

## 大学は何をめざすの？

全国各地では、人口減少、少子・高齢化や第一次産業の衰退に歯止めがかからず苦しんでいます。地域資源である歴史・文化・自然を生かし農を主軸とした「ふるさとの再生」に取り組む人材を求めています。

農業の大産地である市と同大学とが密接な連携を行い、持続可能な農村社会のモデルを創り、地域再生を行なう優秀な人材の育成をめざします。

## 07 同大学に市が財政支援すると聞いたけど？

財源はどうするの

地域創成農学部を設置するのに必要な事業費約20億円のうち、市はその3分の2(13億3,300万円)を上限に同大学へ支援します。そのうち合併特例債を活用し市単独経費としては約8億円となる見込みです。

一方、開校後は、大学と地域が連携し国等の補助事業を活用しながら多面的な農業振興及び地域活性化を図っていきます。



## 06 どんな効果があるの？

経済効果は

学生・教員の居住や生活による消費、大学の運営経費、雇用の確保などで、1年に約2億5,000万円から3億円の経済効果を見込んでいます。また、間接的な効果

では、教員の知財・ネットワークの活用により、6次産業化の促進や現場に密着した課題解決、援農などのシステムづくりなど新たな事業展開が期待できます。

### ● 大学に関するお問い合わせ

吉備国際大学入試広報室  
☎0120-25-9944

### ● 奨励金等の市の事業に関するお問い合わせ

市長公室 ☎43-5002



キウイバード  
(吉備国際大学マスコット)

2013年4月 新学部開設  
吉備国際大学南あわじ志知キャンパス

# 地域創成農学部

School of Agricultural Regional Vitalization

## 01 地域創成農学部で何を学べるの？

地域創成ってどういう意味

聞きなれない『地域創成農学部』という言葉。これは「地域の農業再生」、「地域社会を地元住民と大学が共に創る」ことを意味します。

通常の農学部とは異なり、地域創成農学部の基礎となる3分野（農業生産、農産物加工、農業経営）全体を

幅広く理解し、卒業後、各分野との連携を図りながら、地域の創成を担う人材を育てる学部です。



## 03 地域社会をともに創るとは？

具体的に何ををするの

同大学では地元農家と連携して農作業実習を行う計画です。農家の人の長年培ってきた豊富な経験と教員の知識、学生の若さと一体となって地域を活性化するための地域連携センターを設置します。

そのほかにも農業経営において地域農家が実際に直面している課題の解決策とともに模索したり、学習講座を開催したりと多くのことを計画しています。



## 05 入学支援ってあるの？

入学奨励金について

市では市内で開校する同大学への入学を奨励するため、また大学と連携したまちづくりによる地域の活性化と若者の定住を促進するために入学生を対象に奨励金を支給します。

条件は市民及び入学後1か月以内から入学年度の

10月1日までの間、市内に居住及び住民票を移した学生です。奨励金額は入学金相当額の30万円を支給します。



※大学イメージ

## 大学ができて何が変わる？

平成25年度4月から吉備国際大学南あわじ志知キャンパス地域創成農学部が開校します。市内に大学ができると私たちの生活にどんな変化があるのでしょうか。

## 02 なぜ農業に関する学部？

大学の役割って何

食の安全への関心が高まる昨今、消費者の指向は産地の分かる農産物に向かっています。また、世界的な食料危機も懸念されている中で、日本の農業には将来性があると予測されます。

高い食料自給率を誇る南あわじ市は、学ぶのに

最適な環境です。同大学では、地域の食・農産業の発展とそれを基盤とした地域の活性化に貢献できる知識と技術を備えた人材を養成し、そのような学生を地域、そして全国、さらには世界に送り出していくことを考えています。

## 04 本当に学生が集まるの？

一学年何人なの

定員は一学年60人の4年制、3年次編入生と併せて260人となります。少子化の中で学生が集まるのかという心配もありますが、近畿・中国・四国地方の高校生約5,700人を対象に同大学が実施したアンケートでは、地域創成農学部

への進学意欲を示した生徒が178人と定員を大きく上回った。理系学部が人気を集めていることから、同大学では学生を確保できると考えています。



淡路島がまるごとキャンパス。見て・触れて・考える、実践的農業学習。

### ■ 地域のバックアップによる「食農コープ教育」

教室での専門講座と、生産から消費まで幅広い職場体験を組み合わせた実践型学習だから、農業を取り巻く課題をより深く理解し、自ら考える力が身につきます。



### ■ 地域社会最前線の「いま」が分かるインターンシップ

農業関連施設や企業、行政でのインターンシップを通じて、専門分野の理解を深めるとともに、実際の現場に触れることで社会意識を育みます。

### 農業技術分野

品質の高い農産物の生産や病害対策など農業の軸となる知識・技術を学びます。

#### ■【カリキュラム】

- 植物育種学概論 ■ 植物病理学
- 植物バイオテクノロジー概論 ■ フィールド実習
- 施設栽培・植物工場論 など

最新の技術を学ぶ

#### 植物クリニックセンター

学内に病害・虫害植物を治療するクリニックセンターを開校。地域の農業に貢献するとともに、治療のための診断防除や病気に強い品種づくりの技術を学び、植物保護分野の担い手となる人材を養成します。

### 食品化学・加工分野

栄養や安全性を踏まえた食品の分析・加工など実践的な知識・技術を学びます。

#### ■【カリキュラム】

- 食品加工化学
- 栄養化学
- 食品機能分析化学
- 食品衛生学
- 乳製品加工学 など

将来を見据えて学ぶ

食品衛生管理者・食品衛生監視員資格科目

製造・加工現場や保健所等で衛生管理ができるよう、食品の安全性や環境についての専門知識・技術を学びます。

## 地域創成

農業の生産、加工、流通全般にわたる専門的な知識と技術を学んだ上で、広い視点に立ち、地域創成に寄与していくことのできる力を身につけます。

- 地域創成農学概論
- 地域創成農学演習
- 食と農のデザイン論
- 地域マネジメント論
- ソーシャルファーム論 など

### 農業経済・経営分野

食と農に関する経済・経営・政策とその課題解決について総合的に学びます。

#### ■【カリキュラム】

- 農業経済学
- 農業経営学
- 食料・農業・農村政策論
- 農業・食品業のブランド戦略
- 地域産業複合体論 など

食農の現場で学ぶ

地域連携センター

地域社会と共同の教育研究施設を設置し、ともに地域の課題解決に取り組みながら、地域の農業に貢献するとともに、地域を活性化できる人材を育成します。